1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2015年3月25日発行　SSKU増刊通巻、第5085号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

一般にアディクトは面倒くさがりです。潮騒キャンプ＆運動会でも、明らかに迷惑そうな表情を見せる者や、例によって辺り構わず横になってまどろむ仲間たちが目立ちました。それが運動会プログラムとなるや子供時代に戻ったかのように、負けん気を発揮するから不思議です。チームワークが求められる綱引きやリレー競技は圧巻でした。でも、競技が終われば和気あいあいとした雰囲気に。施設の日常とは異なる自然豊かな里山空間での運動会が今年も盛り上がりました。（4～6ページに関連記事）

2015
3

２つのメモリアル事件から私たちの今を考える

季節は春。冬の間にすっかり縮こまっていた心と体が少しずつ解きほぐされ、どことなく気分を上向きにせてくれます。一方で春３月は、記憶を風化させてはならない２つの問題に向き合う時期でもあります。依存症の後遺症と加齢で弱った私の頭ですが、貧しいながらも２つの難しいメモリアルな問題を考えたいと思います。１つは「3・11東日本大震災」から４年目を迎えた被災地の進まない復旧・復興の問題です。潮騒JTCも海岸部にある本部施設が被災し、予期せぬ修理費の捻出に苦労しました。また潮騒ファイザープロジェクトで取り組むはずのシイタケ栽培がやっと収穫まで漕ぎつけた矢先、福島原発事故の放射能汚染で事業中止を余儀なくされました。甚大な被害を受けた東北地方の人々と思いは共有しているつもりですが、依存症者としての一番の気掛かりは、生きるビジョンを失った人たちが自殺する現実と、深刻化するアルコールや薬物、ギャンブルに依存する動きです。潮騒も東北被災地にエイサー慰問活動をしていますが、日の当たらないメッセージ活動であっても人知れず心の復興に向けて何かしらの意味があるはずです。潮騒流のスタイルで、世間に知られない被災地の隠れた現実と向き合っていく活動を大事にしたいものです。

もう一つは、この国の治安の在り方を変えた「オウム地下鉄サリン事件」から20年の節目を迎えた問題です。メディア報道のように、今もって多くの被害者の傷は癒えることなく、大変な苦労を強いられています。なぜ若い優秀な人材があのような理不尽極まりない凶悪なテロ犯罪に手を染めたのか、どうして怪しげな宗教にイカれてしまったのか、そもそもオウム事件とは何だったのか？ 今もって未解明な謎が多いですが、ダルクや潮騒もオウム事件の余波で、新しい施設設置が地元の反対で頓挫するケースがありました。でも、私たちがこの事件を教訓にするならば、自分たちの狭い世界を絶対化せず、絶えず自分たちを世間に開いていくことです。依存症は別名、「孤立と孤独の病」でもあります。私たちに対する地域の理解は牛歩でも、明けない夜はありません。

依存症の回復には自分の無力を認めハイヤーパワーに我が身を委ねることが大前提だとしても、ふだんから「自分の頭で物事を考える」という精神のリハビリを怠ってはならないということも教訓です。人は先が見えなかったり、何か不安があったり、さらには大きな困難に遭遇したりすると、つい思考を中断してしまいがちです。そして安易に他人に判断を求めたり、何かにすがりつこうとします。自分の頭で考えなくて済む分、確かにこの方が楽です。でも、この世の中には、おあつらえ向きの「答え」など用意されていないと考えるべきです。私たちが毎日行っているミーティングは過去の反省が中心ですが、そのことを一生自分の頭で考え続けることは、マイナスだった過去が未来に向かって珠玉の体験となり得るのだと私は考えています。

（センター長 栗原 豊）

茶話本舗デイサービス 百寿亭 鹿嶋市にオープン

▲ 百寿亭のスタッフ

潮騒JTCが構想する「しおさいアディクションビレッジ（依存症村）」の“出口”機能を担う関連として高齢者向け小規模デイサービス事業が、この3月にスタートしました。拠点となる通所介護（デイサービス）施設「百寿亭」（鹿嶋市宮中）には毎日、地元のお年寄りの皆さんが利用しています。以下は責任者のマコトさんからのメッセージです。

◇　◇　◇

皆様こんにちは。この度、茶話本舗デイサービス百寿亭をオープンさせていただく事になりました 株式会社「百壽」代表の加勢誠です。職員一同他愛もない事を言いながら楽しく毎日を過ごさせて頂いております。

施設の概要を簡単に説明しますと、百寿亭はリビングが広くガラス張りで日当たりが良く落ち着く空間です。バスルームは家庭的なユニットタイプで、広くてゆったりとしています。トイレはウオシュレット付きで常に清潔で広く、車いすも入れます。静養室にはベットを常備し、体調不良の方に対応します。利用者を事務所、デイルームからアクリルで見ることができ、常に安全管理がしっかりしています。昼食費も400円と安く、利用者の皆さんと一緒に昼食を作れるのが百寿亭の最大の魅力です。私の作るカレーライスはとても美味しいですヨ（笑）。

この度FC契約させていただき、デイサービスを始める事になった一番の理由は、私の前職の現場でのケアの限界をつくづく痛感させられたからです。私は依存症回復支援施設で長く働かせて貰いました。その中でも高齢化が進み、社会復帰が難しく、次の施設と思っても依存症という言葉が邪魔をし、なかなか受け手がないのが現状です。自業自得という意見が一般的ですが、私はそれだけでは片付けられないと思います。依存症になりたくてなる方は居ません。依存症という病気を持った方でも同じように歳をとり、体も悪くなり認知にも障害が出てきます。一般の方と変わりはないと私は考えます。一般、依存症と分けるのではなく一緒に生活出来たら最高だなと心から感じております。

私は介護の経験がありませんが、私以外は介護の経験がある職員を募りました。私は依存症のケアの経験、職員は介護のケアの経験、両方の経験を生かし、どなた様でも受け入れる事が出来る施設作りを念頭に置き頑張っていきたいと思っております。まだまだ若い私共ですが、皆様のご理解とご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

◇　◇　◇

※茶話本舗＝コミュニケーション（＝茶話）を通じて、利用者の身体・精神状況を把握し、その内容に基づいた適切な介護（ケア）を行う能力のある「介護職人」のいるデイサービスを目指し、全国展開をするフランチャイズのデイサービス。現在全国に約720店舗を展開中。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2015年3月25日発行　SSKU増刊通巻、第5085号

潮騒運動会

今年はチームワークで紅組が総合優勝！

童心に帰って仲間たちが力走！―。第 5 回目を迎えた「潮騒 JTC キャンプ＆大運動会」が初夏を思わせる天候の下で 3 月 17、18 の両日、土浦市永井の茨城県立中央青年の家でありました。公共の研修施設を利用して入寮者の運動会をメーンにしたプログラムの導入は前回（昨年度）からです。今年は気候や施設の年間行事などに配慮して春季開催となり、参加した約 100 人の仲間たちは自然あふれる里山空間で、施設の日常とは異なる集団生活を体験しました。運動会種目では、子供時代にタイムスリップしたかのように綱引きやリレー競技などに夢中になり、応援も盛り上がりました。仲間たちは、いつもとは異なる非日常のプログラムで充実した 2 日間を楽しみました。

こうした形で施設外イベントに取り組むのは、大所帯の潮騒にとっては大きな負担を伴います。まず車に分乗しての移動が大変な上に、中高年の入寮者が多く病院通いが日課となっている状況下で、仲間が意欲的に参加するか心配でした。それだけに今回はイベントを下支えしてくれたスタッフと農業隊メンバーらの頑張りが光りました。それに、これまでは雨にたたられる場面が多かったのですが、今年は快晴で汗ばむ陽気の下での開催でした。麗らかな日差しを受け、あちこちでまどろむ仲間も多かったですが、一日中室内で過ごしているのと比べても、自然のおいしい空気と芽吹き始めた緑の景観に心も癒されたようです。

初日は午前中、オリエンテーション（施設利用の説明）の後、予め振り分けられたグループごとに部屋に入って顔合わせして、10 時頃からソフトボールと勾玉（まがたま）作りに挑み、それぞれ希望者が取り組みました。ソフトボールは施設でも運動プログラムとして定期的に取り組んでいますが、深い緑に囲まれた中でのプレーは違った醍醐味があったようです。みんなの歓声が森深く響きました。勾玉も指導を得てみんな器用につくりあげ、自分だけの作品に満足そうな表情を見せていました。

“罰ゲーム”の激辛クッキーも何のその

昼食・休憩に続き、午後は体育館での綱引きが圧巻でした。入寮者は予め紅白に分かれ、まずそれぞれの力自慢が代表として挑戦。続いて若手やシニア組の代表が選手となり、それぞれチームワークを発揮して呼吸を合わせて綱を引き合いました。負けたチームには容赦ない激辛クッキーの“罰ゲーム”が待っていました。もっとも、辛さには免疫があるのか、味覚が他の人より弱っているのか、あまり効果のなかったメンバーもいて、周囲の笑いを誘っていましたが…。

夜は体育館で自助グループのキャンドルミーティングがあり、各キャンドルの周囲をグループごとに丸く囲んで幻想的で厳かな雰囲気の中での分かち合いがありました。同夜はクリーンバースデイのお祝い会がサプライズで企画され、「断酒・断薬・断ギャンブル」のクリーン期間が1～3年の仲間が呼ばれ、一人ずつメッセージに立ちました。当該メンバーには特別にバースデイケーキがプレゼントされ、他の仲間たちもジュースとエクレアでメンバーのクリーンバースデイを祝いました。タケシさんの「俺は病気だけれど生きているぞ～」という即興歌に合わせてシンヤさんが得意のストリートダンスを披露する場面もあり、バースデイに花を添えました。バースデイメンバーらはクリーンの証しである記念メダルを受け取り、再びメッセージ。その後に互いに固いハグを交わして夜のプログラムを終えました。

パン食い競争で苦戦する選手らには拍手が

２日目は、屋外運動場で本格的に運動会競技のプログラムがあり、飴食い競走、パン食い競争、二人三脚競走、代表選手リレーの各種目が行われました。飴食い競走ではトレーにまぶした小麦粉から飴を見つけ出すのに一苦労しながらも、顔を真っ白にして力走する姿がユーモラスでした。また、スプーンにピンポン玉を乗せて走る種目も意外に難しそうでした。パン食い競争では思うように菓子パンを口にくわえることができずに悪戦苦闘する選手たちに、応援の入寮者らから笑いと拍手が送られました。圧巻は運動会最後の種目、健脚を競い合う代表選手10人によるリレーです。紅白それぞれ足に自慢のある選手たちが選ばれ、円陣を組んで気合いを入れました。いざスタートとなると、全員バトンの受け渡しはスムーズでしたが、白組に大きな落とし穴がありました。本人の懸命な力走にもかかわらず途中思ったほどスピードに乗れなかった仲間の一人が、文字通りチームの“足かせ”となり、半周近く差を付けられてしまいました。後続メンバーが必死に追い上げましたが、これもご愛嬌。潮騒ならではの和気あいあいの楽しい運動会となり、選手も観客も一緒になって楽しめたリレー種目でした。

「来年も運動会で頑張ろう！」と締め括り

昼食後には閉会の催しがあり、総合優勝を飾った赤組メンバー全員に「棚卸用に使う」鉛筆とノートが贈られました。勝利チームを代表してコバさんが得意のおやじギャグを交えて「来年も運動会で頑張ろう！」とあいさつ、準備段階から関わり、本番でもトラブルや事故もなく全てのプログラムを終えたことを感謝して、みんなでスタッフや農業隊メンバーらを称え、心地よい疲れの中全員が車に分乗して帰途に就きました。

タカ感想文　感動と発見が多かった潮騒・春季キャンプ＆ミニ運動会

１泊２日の日程で企画された潮騒の春季キャンプ＆ミニ運動会に参加したので、その感想を記します。

初日は現地（県立中央青年の家）に着いてから、午前10時過ぎに野外でソフトボールの試合（紅白戦）をしました。老いも若きもコケたり、ファインプレーをしたり、ランニングホームランを打ったり…、とみんな一生懸命でした。僕ら応援団も大笑いしながら、大声で応援しました。２階研修室では勾玉づくりをしていました。仲間の作った作品を見たら、とても素敵で格好良かったので、次回は僕も勾玉作りに挑戦したいと思いました。午後からは体育館で綱引きやドッヂボールをしました。綱引きは初めは紅組が勝ち、その後は白組の連勝でした。ドッヂボールは、さすがに若い仲間たちがよく走り回り、活躍していました。応援していて、とても楽しかったです。

夜は体育館で自助グループのミーティングがあり、この中で４人の仲間（コウジさん・シュンさん・ナカちゃん・一休さん）のバースデイのお祝いが、サプライズで行われました。室内の電燈を消して、キャンドル立ての一番上のローソクに神父（というよりエロ坊主みたい）の格好をしたオカさんが火を付け、ヒトシさんの一言に続き、多くの仲間がお祝いの言葉を贈りました。タケシ君のラップの曲に合わせてシンヤ君がダンスを披露し、２人の息がピッタリと合ってみんなを楽しませてくれました。

２日目は午前９時から野外運動場でミニ運動会（飴食い競走・パン食い競走・リレーなど）がありました。パン食い競走には僕も参加しましたが、パンがなかなか口に入らず、しかも足がもつれてしまい結果は一番ビリでした。最後のリレーでは、白組はオカさんが途中でコケて抜かれてしまい、アンカーのマサヤさんが猛スピードで追い上げました。紅組アンカーのカイジさんも素晴らしい走りで、最後のゴール近くになると白組へのお情け？

もあって流してくれましたが、マサヤさんをかわして紅組の勝ちとなり、総合優勝に花を添えました。

今年はキャンプ＆ミニ運動会に参加できて良かったです。久し振りに、平成 22 年同期入寮のチョウさんともゆっくり話ができました。チョウさんは予期しない病に倒れたものの、その後は懸命にリハビリに励み、後遺症を抱えながらも潮騒 JTC に復帰した人です。今回は、チョウさんの仲間とは別な一面（格好いい所、見習うべき所、見直したこと）を見ることができ、僕には楽しく思い出に残る２日間でした。多忙な中で準備をしてくれたスタッフ、参加した仲間の皆さん、お疲れ様でした。僕はこれからも潮騒の仲間と共に、気軽に楽しく一日一日を大切に歩んで行きます。

シンヤ 感想文　ダンスは僕の生涯にわたる夢や希望で人生そのもの

今日は、運動会のプログラムに組み込まれたダンス本番の日。この日のためにダンスの振り付けをし、２カ月前から練習してきた。僕にはダンスを８年やっているという強い思いがあり、本番では絶対に失敗したくなかった。練習をすれば体力もつくし、後でやってて良かったと思える。なにしろ僕の夢はダンサーになることだ。運悪く依存症というハンディを負ってしまったけれど、まだ夢は諦めていない。ダンスをすることは僕の生涯にわたる夢や希望であり、人生そのものなのだ。

僕がダンスを始めたのは中学３年の時、ストレス解消で始めたのがきっかけだ。続けているうちに楽しいと思えるようになった。でも働いていた当時は仕事がきつくて週に１回しか休みがなく、ダンスの練習にも週に１回しか通えなかった。正直、そんな毎日の生活が不満だった。もっとダンスがしたかった。それでダンスにハマり、ダンススタジオに毎週通った。そして目標ができた。お金を貯めてダンスの専門学校に行く事になったのだ。ダンスを続けているうちに、ダンスの事をもっと深く知り、もっと上手くなりたいと思った。だからダンスを教える立場になった時には凄く嬉しかった。そんな過去の思い出がよみがえり、必死に練習した甲斐もあって、本番では失敗せずに踊ることができた。今回の潮騒キャンプ＆運動会はとても良い思い出になった。スタッフ、そして参加した仲間の皆さん、お疲れ様でした。僕はこれからも時折、仲間の前で得意のダンスを披露しながら、楽しく回復プログラムに取り組みます。

カイジ 感想文　今しかない時間を共有した潮騒・春季キャンプ＆ミニ運動会

今年の潮騒キャンプ＆運動会は天気にも恵まれ、身も心も晴れ晴れとしていました。このイベントに参加できる喜びを、ひときわ強く感じていたからです。昨年はリラプス（病気の再発）で入院し、ベッドで淋しく過ごしていました。それだけに今年は、みんなが楽しんだ昨年のキャンプの DVD 映像を思い出しながら、充実した２日間を過ごせました。とりわけ仲間が苦労して企画した運動会は面白く、自分も楽しめました。改めて仲間の中にいることの楽しさ、潮騒の中でしか感じることのできない得難い体験ができました。振り返ると学生時代でも、こんな楽しい思い出の運動会は体験できませんでした。今しかない時間を共有し、大切な仲間たちと思い出に残る分かち合いができました。スタッフや下支え役割をこなした仲間たちに感謝です。これからも新たな出会いがあり、依存症の回復を目指す仲間が増えていくでしょうが、こうした濃密で充実したイベントはずっと大事にしたいです。

▲ ダンスを披露するシンヤさん

今月のイベント参加報告

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

AA日本40周年記念コンベンションに参加して

今回チャンスを頂き、2月20～22日に横浜で開かれたアルコール依存症の自助グループの大イベント「AA日本40周年記念集会（ジャパン・ワールドコンベンション）」に参加しました。実は名古屋市で開かれた35周年集会の時にはチケットを買って準備をしていたのですが、私自身のスリップと施設移動に伴って参加できなかった苦い体験があります。あの時は都内のハウスから隣のマンションの壁を見つめながら、「俺、何やってんだろう」と落ち込んでいました。プログラムにつながりながらも、なかなか自身を見つめられずに右往左往が続きました。何とかみのわマックにつながり、そこで出逢ったオールドタイマーの背中は今も自分の希望です。

今回は前回の無念さを払しょくでき、この国のAAの歴史に自覚を深めました。40年前に初期の「トゥディ」といわれるグループからＡＡが立ち上がり、ピーター神父、ミニー神父をはじめ初期のメンバー（その中にはブルートさんもいたらしいです）に思いを馳せていました。ミーティングがあるから、仲間がいるからプログラムができる、どんな人でも参加ができる居場所がある。それが40年間も継続しているのは凄い事だと思います。

最後のプログラム・オールドタイマーのミッキーさんの話が終わって会場の外に出たら、自分を手招きする江戸川グループの仲間たちがいました。グループに飛び込むと、暖かいお風呂に皆でつかってポカポカしたような感じがしました。わがままし放題の子供が帰省したみたいに、懐かしくてはしゃぎまくりました。

ミッキーさんは「人は生きていれば、いろいろあって当たり前だよ」と話していましたが、アディクトはホームがあるから頑張れるのもまた確かです。私も運命に導かれるように茨城に来て、はや５年になります。人一倍病気が重いせいか今も牛歩の歩みですが、「もし許されるなら、この地にホームをつくりたいな」という妄想？ を抱くようにもなりました。夢や空想でも少しずつ努力を重ねれば神様は叶えてくださる— そんなことを信じて仲間とともに「今日一日」の精神で、ゆっくり自分のペースで回復に励みます。（トム）

薬物依存症者の北関東地区イベントに参加しました

先ごろ、北関東地区で活動する薬物依存症者の自助グループイベントが結城市であり、オープンスピーカーに参加して約 180 人余りの仲間との出会いを体験する事ができました。仲間たちは皆、薬物依存症ばかりで、会場は自助グループ（ＮＡ）特有の雰囲気でした。自分はこのＮＡの中に居るのが大好きです。ここが自分の居場所だと、いつもいつも気づかせてくれるからです。

スピーカーをしてくれた仲間の苦しみにあがいた日々の体験と、その仲間本人の姿は大きなメッセージとなり、会場の中で私は私の体を大きな愛に優しく包まれているような居心地の良さを感じた程でした。仲間が病気回復のために取り組んだ日々は、やはり生易しいものではないようでした。それは、そのまま自分が今日まで歩いて来た日々と重なりました。何故かは分かりませんが、苦しみながら取り組んだ日々なのに喜びを分かち合っている感覚で、心が満たされる思いでした。

うまく言葉にできませんが、そこに地域における自助グループ活動の意義や存在価値があると私は考えます。回復の道を歩む中で、こうした大きな喜びを感じた事は、これまでに何度かありましたが、どうしてこれ程苦しんだのに喜びの時間ってこんなに短いんだろうって思う程、すぐに次のプログラムが与えられてきたように思います。「今日一日」のプログラム、また次の喜びに出会えるまで、病気回復のため、私も自助グループの仲間と共に、また「今日一日」をあがいていきます。（クニオ）

▲ クニオさん

近藤恒夫氏インタビュー

ヤク中が就労するためにはまず教育が必要だ

●ダルクは僕が回復するためにこそ必要だった

―　前回、近藤さんは初めてダルクをつくる際にダルクを就労の場にしようと考えた、と打ち明けてくれました。それって、ちょっと意外に思えるんですけど。だってダルクで回復したら社会復帰を目指す、という大事な目的がある訳でしょう。社会復帰できたら仕事をして収入を得る。そうして生活が安定したなら、その先には結婚して家庭を持つ、子を設けて人並みの幸せを手にする、っていうビジョンが描けますよね。だから就労支援は欠かせない柱だと考えていました。まあ、ダルクだって社会の一員だから、そこも就労の場であることは間違いないんですが、そこんとこを詳しく説明してください。

近藤　まず依存症は一般に考えられるような簡単な病気じゃない。一緒にやめていく仲間や同伴者が必要だ。僕にはロイさんがそうだった。それにダルクは、僕が回復するためにこそ必要だった。仲間の回復を支援することは自分の回復だからさ。それでアルコール依存症の神父だったロイさんのおカネを借りて、東京の荒川区にダルクをつくった。そうして就労の場にしようと、その時には考えたんだ。それは次の人たちのためにね。だってダルクがたくさんあれば、たくさんの人たちが働けるようになるだろう。例えば１つのダルクで３人は働けるだろう、スタッフとして雇うことでね。今のように全国各地にダルクが増えるというイメージはなかったけど、机上の計算だったけども80カ所あれば3×80で240人の雇用ができるだろう、と。たいした給料はもらえないだろうけどね。

―　それは派遣みたいな雇用イメージですか？

近藤　そうじゃない。責任者であり、スタッフとして。それぞれがダルクで当事者として働く。一定期間クリーンを積んで、スタッフ研修やったりしてノウハウを学んで、ダルクに就労する。

●１ダルク３人が働ければ100施設で300人に

―　ダルクに職員として就職する、ダルクで自立するイメージですね。

近藤　幸いに僕の予想を超えて、ダルクも今じゃ80カ所以上、関連施設を含めると100カ所ぐらいになるんじゃないか。そうすると、100ある施設の中で３人が働けるとなると合計300人になる。300人の人はダルクでクスリ使わない生き方ができる。そうしてスタッフとしてのアイデンティティーを持てる。それもありかな、と。ダルクがたくさんあれば、そこにたくさんの雇用の場が生まれるって発想したんだ。

承知のように、みんなダルクにつながっても臆病でなかなか社会に出られないのが実態でしょう。戻ってくるよね、だいたいがね。戻ってくるということを想定したら、前に述べたようにダルクは就労のためにある、という考え方だと施設として成り立たなくなってしまう。繰り返すけど、もしダルクが仕事を斡旋したりしたら、失敗した人はダルクには戻りにくくなるでしょう。「俺はダルクに言われたから、ここに働きに来た」という形で運よく就職できたとしても、「給料は安いし仕事も面白くない。だからクスリ使った」となったとしたら、もうダルクには戻って来れない。その人に良かれ！として取り組んだダルクの就労支援（＝仕事の斡旋）が、結果的に本人の回復には逆効果になってしまう。その人への親切があだになる形だな。だからダルクの就労支援は必ずしも本人にプラスとはならない。違うダルクに行くという選択肢もあるが、依存症の回復においてはダルクの関係は生涯にわたって持った方がいいから、それを途切れさせるのとどっちがいいかな、と考えたら答えが出るよね。

―　確かにスタッフとしてダルクで働く、職員として自立するという流れはこの30年間でだいぶ形になって来ています。もう一つの流れ、外に出て仕事をする流れ、社会復帰して普通に生きているという「出口」の方向性はなかなか見えない。仮に社会復帰や就職に失敗しても、やり直して何度でもチャレンジしていく流れもほしいなあ、と思うんですが…。

●薬物よりもアルコールの人の方が社会経験は豊富

近藤　そうだね。アルコール依存症の人たちはそれが比較的できている。だって、多くの人がかつて働いたことがあるでしょう。しかも結構、学歴もあって、そこそこ能力を持った人たちがいる。だけどヤク中は使い始めの年齢が若くて、しかもずっと使ってきた人が多い。中学生でゲートウエイドラッグに染まって、だいたい30歳ぐらいになって問題が複

「ダルクと就労支援について」

短期連載 Vol.3

潮騒ファイザープロフェクトの助成事業により
整備された農場でジャガイモを収穫する仲間。
潮騒JTCが自前で就労支援の受け皿を整えた意義は大きい

雑になっていく。にっちもさっちもいかなくなり、犯罪者として刑務所に行く人たちと、何度も精神科病院に行く人たちの、２つにだいたい分かれていく。いわば刑事司法側に行く人たちと医療側に行く人たち、という構図だな。

で、司法側に行く人たちは、どちらかというとマッチョな人たち。考え方が「俺は男だ」みたいに格好をつける人たち、どちらかというと発達障害系の人たちだからね、反社会的な所でしか自分の居場所や生き方を見出せない。だって教育されていないんだからさ。14歳ぐらいからクスリ使って20歳ぐらいで一度はやめる動機が出て来る。捕まるか病院いくか、２つのルートしかない。そんな風だから、まず仕事だって続かない。ろくな仕事でしか定着しない。というのは学歴がないからな。

そこいくとアルコール系の人たちは違うよね。人生を豊かにして楽しく飲んできたはずの酒が、ある日、自分を苦しめ始める。手が震えて幻覚が見えて幻聴が聞こえるようになる。それで45歳から50歳ぐらいで会社をクビになる。遅刻が多くなり、仕事に支障をきたすようになる。飲酒運転でダメになる。でも、それまでは働いてきた経験がある。

●中学、高校程度のふつうの常識的な知識でいい

近藤　だけどヤク中は14歳でシンナー覚えて18歳で覚醒剤に移行し、高校も中退して学歴もない。こうなると仕事も水商売か土木建築の現業職をアルバイト的にやるしかない。何も高等教育が必要な訳じゃないんだ。中学、高校程度のふつうの常識的な知識でいい、それが社会常識として身についていないと社会ではまず通用しないだろう。コミュニケーション能力だって低いから、就職できても人間関係がうまくいかない。あちこちで躓いて職を失い、職を転々とする。

―　なるほど、それで近藤さんはインテグレーションセンター構想の中に教育を重要な要素として位置付けたんですね。でもこれって偏見かもしれないですけど、ダルクの人たちって一見すると人間関係のさばき方は如才ないけど、それは仲間内でのことで、社会で仕事をしていく上でのスキルとなると人間関係の処し方も含めて“危うい”という印象を持ってしまうところがあります。

近藤　だからね、インテグレーションセンターは昨日今日の思い付きではないんだ。一時期、真剣にジョブトレーニングについては考えたことがあって、実際にあちこちの企業にアタックした経緯がある。日本ダルクのスタッフが刑務所に出向いて職業訓練部門の担当者に会って事情を聞いたりした。しかし、どうやらそういう所でやられている試みは、実社会に戻っても役立ちそうにないんだな。ヤク中は多くが学歴がなく教育を受けていないために、いろんな支障が出る。そういう事情があっていったん停止したという経緯がある。

今は潮騒を筆頭にして農業分野の取り組みがいくつかのダルクで試みられているけど、できたら自分のところでやれたらいいよね。次は多分、自動車の修理工場みたいなものが必要になってくるでしょう。潮騒だって大所帯だから車も相当あるだろう。都会なら公共交通機関が発達しているからいいけど、田舎のダルクはそうはいかない。どうしたって車は必需品だ。

●世界には依存症の一大コミュニティーがある

―　確かに車ってカネ食い虫ですからね。ガソリン代もかかります。燃料代、保険、それに故障すれば修理代がかかる。税金だってかなりかかります。

近藤　そうすると中には、自分は自動車の修理工場で働いていたことがある、っていう人だっている。そういう人材がいるなら、じゃあ自分たちで修理しちゃおうと。車にトラブルがあったら、ほかに頼むんだったら自分とこでやった方がいいわけだから。中古車センターみないなものだってね、あってもいい。車が必需品の田舎のダルクならよりニーズは高い。手に職を持つそういう人たちもダルクにはいる。実際にイタリアの施設なんかは自動車の修理工場がある、牧場はある、動物園だってある。そこまでいったら依存症者の一大産業だよね。自給自足でやっているところでは1000人規模でやっているところもある。

そういうとこはヤク中とかばかりじゃなくて、なかには難民もいる。それこそ施設内にキリスト教会だってある。車だって大型バスを持っていたりしてね、それこそ一大コミュニティーだ、セラミック（陶芸）、皮細工、もちろん農業もある。馬も3、4頭いたな。ケタ違いの規模だよ。（次号に続く）

受刑者からの手紙

「かまど」で青パパイヤのサラダを一度食べてみたい

ここ北海道はまだ雪が積もっています。先日は、おハガキを頂きまして、ありがとうございました。その中に「今日一日を朝に考え乗り切って下さい」と書いてありました。本当にありがたい言葉だと思います。自分の胸の奥にしっかりと受け止めておきたいと考えております。この歳になりますと、刑務所生活も普通に暮らして行ける分にはあまり辛くはありませんが、自分なりに現在辛い局面に向かい合っております。でも乗り越えなければいけないので、頑張って暮らしております。

潮騒通信「どっこい生きてます」いつも送って頂きありがとうございます。“青パパイヤ”の話ですが、先日テレビで、千葉県の行徳の八百屋さんに青パパイヤを求めて買いに来るタイ人が大勢いる、と放送しておりました。行徳の街は東南アジアの人達が沢山住んでいるらしいです。潮騒が運営する「おらげのかまど」で青パパイヤのサラダを一度食べてみたいですね。

（北海道　Y・M）

満期であれ仮釈であれ残りの人生を少しでもきれいに送る

当地刑務所で3回目の春を迎えています。私よりも先に出所して行く人達を見ると、本当に羨ましい限りです。今年 51 才となり、やっと出所です。今回栗原さんに引き受け人になって頂き、本当にありがたく思います。キクさんたちもいて、本当によかったと思っております。それと少し前の便りに今私もお金がないこともあり、切手を送って頂けると書いてありました。今の私にとって切手を送って頂けるだけでとてもありがたく思います。私も今度はたとえ満期出所であっても仮釈放であっても、覚せい剤をやめ、残りの人生を少しでもきれいに又楽しく送って行きたいので頑張ります。毎月送って頂いています。「どっこい生きてます」も楽しく読ませて頂いています。

（東京都　A・M）

こんな病気になるなんて、神の罰が下ったのでしょうか？

その後いかがお過ごしでしょうか？ 現在の私の状態を分かってほしくて、また手紙を書いております。入院中ですので夜しか手紙を書けません。私の病気はパーキンソン病？ みたいな感じでヨダレが出っぱなし。まともに長いこと話も出来ません。いつも起きて居る時は、タオルかハンカチを口にくわえています。食事がうまくとれなくて汁に「とろみ」を付けた物を少々食べるか、自費購入で足りない分を補うしかないのです。昨日は点滴をやってもらいました。こんな病気になるなんて、神の罰が下ったのでしょうか？ 今は施設長と潮騒の皆様方だけが心の支えです。オレ、絶対治ってみせます。施設長も祈っていて下さいネ！　オレは施設長のことだけは信頼し尊敬しています。

（群馬県　O・K）

出店した店が苦戦しているようだが、潮騒なら大丈夫

自分は先頃3類に進級でき、手紙も一通多く出せたり、お菓子も食べられる様になったりと嬉しいです。それとキクさんよりはがきが届きました。読んで知ったのですが、市役所の前にお店（一膳めし定食屋）をオープンしたのですネ。おめでとうございます。あまり「パッ」としないと書いてありましたが、店を出した道には昔からの店やサンポートがありますね。昼になったら市役所の人が行ったりするのは、だいたい決まった店みたいです。サンポートの中で弁当が安く買えたりするので、経営は少し大変かもしれませんが、我慢強くやって行って下さい。隣にあるインドカレーの店もずっとそこでやって行っていますので…。潮騒の皆なら大丈夫です。負けるな潮騒、フレー、フレー潮騒。自分も一日も早く鹿嶋に帰れるように頑張っています。帰ったら必ず潮騒の店に行きますので負けずに頑張って下さい。

（福島県　A・M）

今回の手紙はスペースの関係で、これまで紹介できなかったものが中心です。少しタイムラグがありますが、ご了承ください。刑務所内から発信する手紙類は検閲を経ていますが、その公表にも気を使います。本人が特定できたり、場所が分かるような表現はもちろんダメです。また、更生に向けて阻害要因となる内容や情報などが書かれていないか、細かい配慮も求められます。その上で薬物やアルコール、ギャンブル依存症から抜け出そうと前向きな姿勢を示す手紙をなるべく多く紹介しています。(K)

毎日ミシンを踏みながら皆さんの活躍を羨ましく思う

私は現在、刑務所内の洋裁工場で働いています。毎日ミシンを踏みながら…潮騒新聞を見ながら皆さんの各方面で仕事やレジャーなどで活躍しているのを見るとうらやましく思っている毎日です。クリーンの中での生活に如何に楽しく価値あるものかを教えられている次第です。私も月１回の俳句クラブに参加しています。何はともあれ１日も早く入所出来る日が訪れないかと念じている次第です。若い時に育ち日本で指に数えられる時もあった卓球で汗を流したり、楽しんだりしています。それでも年も年ですから体は全然動かないですが…。潮騒新聞で施設長の多方面での努力と活躍が目にすることが出来るので、新聞が届くのを楽しみにしている毎日です。

（東京都　J・F）

今は薬を入手できない刑務所生活なので安心だが…

手紙とパンフレット届きました。ありがとうございます。潮騒はイベントが多いのに驚きました。先日、TVに出ている所を見ましたが、栗原さんのコメントが載っていて、その考え方が凄いということを感じました。仲間というのをとても大切にしていて、その仲間たちのためにも日々、頑張っているのだと感じました。私も今は刑務所に入っているので、薬を手にすることができずに生活しているので安心ですが、社会に戻ったら自分でも心配です。手紙にあった様に一日一日を大切に生きて行きたいと思っています。キクさんは元気にされていますか？ 野菜を作ったり、太鼓を打ったりしているのですか。日々をどんな風に生活しているかを良かったら教えて下さい。北海道はまだ寒いですが、鹿嶋は温かい場所でしょうが、体に気を付けて生活して下さい。

（北海道　Y・A）

出所後の生活について何も無い事は自分にとって死活問題

突然お手紙差し上げます失礼をお許しください。栗原さんのことはE･Kさんからお聞きし、大変失礼だとは思いつつも今の自分が置かれている状況で頼れるところもなく、これからのことについて相談したいと思い筆を走らせました。

私は昨年5月に2年4カ月の判決を刑を受けて当所で務めており、現在は所内の工場にて生活しています。名前はOAで、37歳になります。懲役は今回で4度目、過去3度とも満期出所しています。言い訳にしか聞こえないと思いますが、毎回毎回「今度が最後の懲役だ」と言い聞かせているのですが、自分自身に甘いのが原因だと思うのですが、楽な方、楽な方へと考えがいってしまい、結果、今の立場があると思っています。

元々は千葉県の出身であり32歳ぐらいまで暴力団に所属していて、自分自身でいつまでも刑務所に出たり入ったりしていたら、このままで人生が終わってしまうと危機感が募りました。前刑の時に決心しやり直そうと思ったのですが、この有様です。前刑の時に早く社会復帰をしようと思い、保護会の方に身元引き受けをお願いしたのですが、3カ所断られて満期になってしまいました。満期になることに関しては基本的に刑期を全部務めることだと思うので当然だと思いますが、しかしながら出所後の生活について何も無いことが自分にとっては死活問題なのであります。

今回も保護会の方にお願いしているのですが、すでに2カ所に断られていて、残刑が一年近くになり（満期は28年3月）出所後の生活がとても不安です。そこで知り合いのEさんにそのことを手紙で書いたら、「栗原さんという方が相談にのってくれるかも」と返信があったので、厚かましいことだとは思ったのですが、何かよいアドバイスが頂けたらと思い、筆を執った次第です。出所はまだ先だと思っていると、意外に早くその日を迎えてしまいますので、実際に何も準備が出来ていないとこれから再起するにも出来なくなると思っています。こんな自分ですが、やはりもう２度と受刑生活を送りたくはありません。いえ今まで無駄な時間を過ごしてきたと思っています。何かアドバイスを頂ければと切に願っております。

（福岡県　O・A）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2015年3月25日発行　SSKU増刊通巻、第5085号

しおさい俳壇

3月のお題　**蕗の薹**（ふきのとう）

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.17

センター長　栗原 豊

前回、私が刑務所にいた時代には、外部に手紙を出せなかったと書いたが、親族だけには認められていた。もともと刑務所は受刑者が細かい規則で縛られており、自業自得とはいえ世間では考えられない制限が加えられている。私の場合、規則違反で何度か懲罰にかけられてしまい、その制裁措置として外部への手紙の発信が厳しく制限された。その経験に加え、古希を過ぎてから急激に物忘れが多くなってきたことも手伝って、そう思い込んでしまったようだ。

さて、以前にも本欄で書いたかもしれないが、前橋刑務所で 5 度目の受刑生活を送っていた時に、私は姪にかなりの頻度で手紙を出していた。姪もまた依存症で苦しんだ過去を持ち、施設には入所せずに地域の自助グループにつながって、いち早く回復の道を歩んでいた。同じ困難な病気を共有していたから、気持ちが通じ合う部分が多かったのだと、振り返って思う。出所後、姪の導きでダルクにつながり私は回復できたのだから、まさに姪は私にとって命の恩人といえた。釈放期日が近づくにつれて、さすがに私も還暦間近とあってこれまでとは異なり、本当に「底つき」しつつあったようだ。

その姪が、私が出した手紙類を大切に保管してくれていていたことが分かった。姪の配慮で今回、その手紙類を改めて読む機会を得たが、本通信で紹介している受刑者の手紙と同じく、当時の私の受刑生活がよく分かると同時に、手紙には毎回のように俳句や短歌作品を盛り込んでいた。それらは当時の受刑生活を反映している。例えば …

寒月の照らす畳のほつれ跡
愛の文字雫に消える冬の空
冬の獄誰か知り人来ぬものか

気恥ずかしいが、しばらくは姪に送った手紙を振り返りながら、私の俳句づくりの原点に思いを馳せる事にする。何と言っても、私たち依存症者は恥をかくことが回復につながるから。（次号につづく）

婚の日のブーケ思ひつ蕗の花

鬼

原句は少し変えましたが、これで花嫁の持つブーケに似る蕗の花の感じが見えます。ブーケはドレスを着た手に慎ましく持つと可憐ですし、蕗の花の白い盛り上がったのも似ています。自分の思い出の日か娘さんの式の日かを懐かしみながら蕗の花を見る、明るい春に相応しい句です。

特選句

朝靄の小道に見つけ蕗の薹

ヒロ

蕗の薹は川岸や畦などに早春を告げる様に出る、朝の散歩道などに見付けると思わず声を上げたくなるし、その色や形にも心安らぐ。この水郷地帯は山国より靄（もや）が多いがそれは霞みでもありやわらかさでもある。一句は簡潔ながら実感のある詠で清々しい。

特選句

今月の秀逸句

アベ

転寝の夢に探しぬ蕗の薹

秀逸句

転寝は春の温かさの中の昼寝の様なもので、昼食の後などに少し寝ること。その転寝の夢に蕗の薹を探すと言うのも春の昼寝に相応しく面白い句です。雨月物語には夢応の鯉魚がありそれを思う句でもあります。

オノ

天麩羅の衣に透ける蕗の薹

秀逸句

天麩羅の揚げ方もいろいろありますが、素材の色を活かして衣を薄くしたのは見ても美しくことに葉物はその緑が食欲も誘う。衣に透く萌黄の色も少しの艶冶を思う句です。

イシダ

ふきのとう稚児の拳のやはらかさ

秀逸句

春先に土から顔を出した蕗の薹は愛らしく微笑ましいが、稚児の拳も柔らかく可愛い。機嫌の良い時は開いたり握って一人で遊ぶ。「握り拳児が持て生れ蕗の薹」が私にもあり懐かしい句です。

コバ

散歩道ふと足止めて蕗の薹

秀逸句

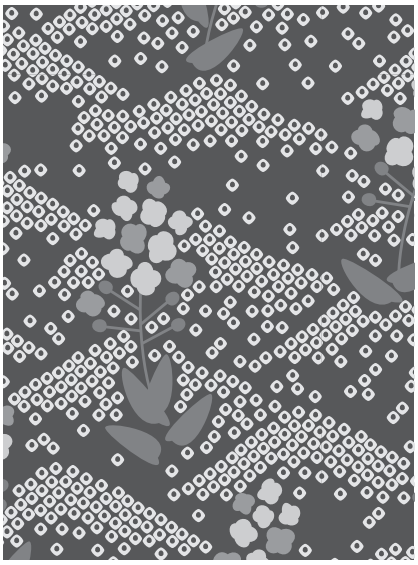
この鹿島、潮来ではまだ多くの自然があり、毎日の散歩で気を付けて見ると色々な草木の芽や花がある。中でも蕗の薹などは故郷の山や川を思い出させる。どこの散歩道だろうか、早春の散歩に相応しい句です。

ユタカ

蕗の薹噛みて初恋遠くあり

秀逸句

蕗の薹はその色や形に比べて食べるとほろ苦い、初恋も大方の者は経験するが思い出となるのが多い、その味は甘いながらもほろ苦いかも。私にも、「桑の実を食べて葉隠れ初恋も」があり懐かしい句です。



佳作

かや

豚肉に添えて食うたる蕗の薹

あお

蕗の薹見つけて春を思うかな

鬼

沢の水流るるそばの蕗の薹

鬼

蕗の薹土をもたげて空を見む

鬼

蕗の薹亡き兄思ふ田舎道

オノ

蕗の薹苦味も美味し祝い膳

イシダ

蕗の薹食べて想いぬ祖母の顔

ユタカ

家長てふ役もありけり蕗の薹

ユタカ

結納やけふの日和の蕗の薹

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2015年3月25日発行　SSKU増刊通巻、第5085号

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～

「キク回復記」 No.2

センター長を支え、施設を支えるルミさんへのエール

個人的な事情で少し間が空いてしまったけれど、なかなか回復できないダメな私の“回復困難？”物語を続けます。今回は、潮騒JTCの女性施設を切り盛りしているルミさんの登場です。今から12年前、隣町にあるダルクで順調に回復の歩みをしていた栗原センター長がある日、「俺の彼女！」と得意げに連れてきたのがルミさんでした。「可愛い子だなあ」「うまいことやったなあ」と羨ましかったことが思い出されます。

当時、ルミさんは今ほどボリュームある体型ではなく、可愛くぽっちゃりした感じの人でした。若い頃から苦労の多い人生を歩んできたようで、同じアディクトとしてアルコールに問題を抱えていましたが、施設につながらずに自助努力により地域で回復を続けていました。その場の雰囲気や相手の気持ちを読んで、私などと違って話をうまくまとめる才覚があり、センター長が施設を独立させてからは仲間たちの食事をつくったり、一緒にミーティングに参加したりして、家族的な付き合いになりました。食後に1、2度ビールを飲んだことを目にしましたが、スリップ経験はそれだけです（私の知る限り…）。施設は独立したものの回復に乗れない仲間ばかりが集まり、私などが伺い知れない深い悩みや苦労が多かっただろうと思います。よく耐えてきたなあ、とルミさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

私はといえば、これまで、そして今でもスリップの繰り返しの生活です。そのたびに堪忍袋の緒が切れた栗原センター長からは、「もう出ていけ！」と強制退寮を命じられます。でも、もはや潮騒以外に居場所がない私ですから、外で段階的な「底つき」を経て再入寮すると、ルミさんは「お帰り！また1からやり直そうよ。キクは病気が深いんだよね」と優しい言葉を掛けてくれます。甘えてはいけないと思いながらも、母親のようなルミさんの優しさと気丈さ、男まさりの白黒はっきりつける性格が、センター長を支え、施設を支えているのだと私は考えます。やはりハイヤーパワーはよく見ており、必要な施設には二人三脚の相応しい人材を与えてくれるものだと感心しています。

忘れられない思い出は、アルコールとクスリ（覚醒剤）でヨレてどうにもならなかった私を（もちろん私はブラックアウト状態）、なんとルミさんはおんぶして車まで運び、病院に連れて行ってくれたことです。もう12年の付き合いですから、何も言わなくてもルミさんの言いたいことは分かります（と勝手に思い込んでいるだけかも…）。女性施設の責任者となったので最近はなかなか会えませんが、ある意味センター長よりも自分を分かってくれている存在かもしれません。ルミさん、ありがとう、そしてこれからも宜しく。

3月のバースデイ

あーちゃん

ガンバルゾ！！

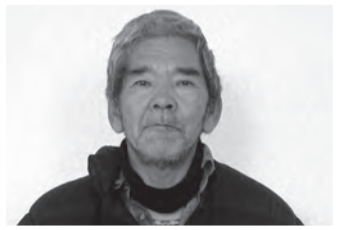
ケン

今日一日

ヒロ

仲間とともに感謝

一郎



若くなりたい

リューマ

28歳になりました。
農業頑張ります。

3月の行事予定

- 7日　「道の駅いたこ」青パパイヤ販売開始
- 8日　秋元病院メッセージ
- 14日　岐阜ダルク・ミニフォーラム
- 16日　新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 17・18日　潮騒春季キャンプ＆運動会
- 19日　高齢者小規模介護ホーム「百寿亭」開所
- 21日　秋元病院メッセージ
- 22日　潮騒家族会
- 26日　映画会
- 28日　とかちダルク３周年記念フォーラム
- 29日　アディクションセミナー

4月の行事予定

- 12日　秋元病院メッセージ
- 18日　秋元病院メッセージ
- 20日　新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 23日　映画会
- 26日　潮騒家族会

※4月中旬　花見予定（水戸市の桜山公園＆偕楽園）

献金・献品を頂いた方（3月15日現在）

- 株式会社ミヤザキ様
- 笹沼 雄嗣様
- 土井エンジン様
- 品川区 渡辺 洋子様
- 高田 武義様
- イルポートこぼり様
- 高橋 ふく様
- 横山 三次様

今月も献金・献品をいただきました。
心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、
回復のためのプログラムを実践することが
できておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記

依存症は制度の隙間に位置する障害であり、厄介な難病です。他の障害・疾病とは異なり、この国では非行や犯罪として一貫して自業自得と自己責任論が幅を利かし、肝心な医療や福祉のケアや制度の下支えが後手に回ってきた。そこにダルクが登場し、「どんな人でも受け入れる」スタイルで30年が経過した。今、私たちの目の前には多様化する依存症や重複障害、高齢化の重たい現実があり、行き場のない当事者や家族の悲鳴に近いニーズの高まりがある。潮騒JTCは栗原センター長の生き様を反映して、できるだけ初期ダルクの志を受け継ごうと努力し、もはやダルクの枠を越えつつあるとしても、これらニーズに対応してきた。結果、この10年間で他のダルクには類を見ないほど急激に関連施設が増えた。その反動からか、最近潮騒に対するやっかみのような声を耳にすることが多くなった。「潮騒は回復そっちのけで金儲けに走っている」「入寮者は金づるとして扱われている」「器ばかりつくって回復者を出していない」等々。いちいち反論するのもあほらしいが、マネージメントを優先させている印象を持たれていることには素直に反省を加えたい。手間暇はかかるが、人的な充実、専門職の下支え、リハビリ環境の充実に力を入れていることを潮騒通信で随時、報告していきます。潮騒は仏も作り、魂も込めます。（市）

潮騒通信　どっこい生きてます！　2015年3月号

Contents

P❷ 2つのメモリアル事件から私たちの今を考える
P❸ 茶話本舗デイサービス「百寿亭」鹿嶋市にオープン
P❹ 潮騒運動会
P❼ 今月のイベント参加報告
AA日本40周年記念コンベンションに参加して
薬物依存症者の北関東地区イベントに参加しました
P❽ 近藤恒夫氏インタビュー「ダルクと就労支援について」Vol.3
ヤク中が就労するためにはまず教育が必要だ
P❿ 受刑者からの手紙
P⓬ しおさい俳壇 3月「蕗の薹（ふきのとう）」
P⓮ どっこい私も生きてます No.2「キク回復記」

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39
E-メール　k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ　http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2015年3月25日発行　SSKU増刊通巻、第5085号

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　**定価 100 円**（会費に含む）　1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2015 年 3 月 25 日発行　SSKU 増刊通巻、第 5085 号